

## 種若丸を弔う

しばらくして、かわいそうに若君は長旅の疲れがもとで病死しました。あやめのまえは、平家方に気付かれぬように、ひっそりと自分で若君を埋葬しました。その墓は後に滝の観音と言われるようになりました。あやめのまえはその子をかわいそうに思い歌を詠みました。  
〔東子や千尋の滝のわねはこぞ広き野原に末と見るらん〕

# 男子誕生

それから、しばらくしてあやめのまえは下原村の寿福寺(じかふくじ)で男子を出産し、豊丸(ゆたかまる)と名付けました。成人の後は水戸新四郎頼興(みとしんしろうよりおき)と名のりました。あやめのまえは、庵を建立(いんりやう)して頼政の像を納めました。今の観現寺(かんげんじ)です。

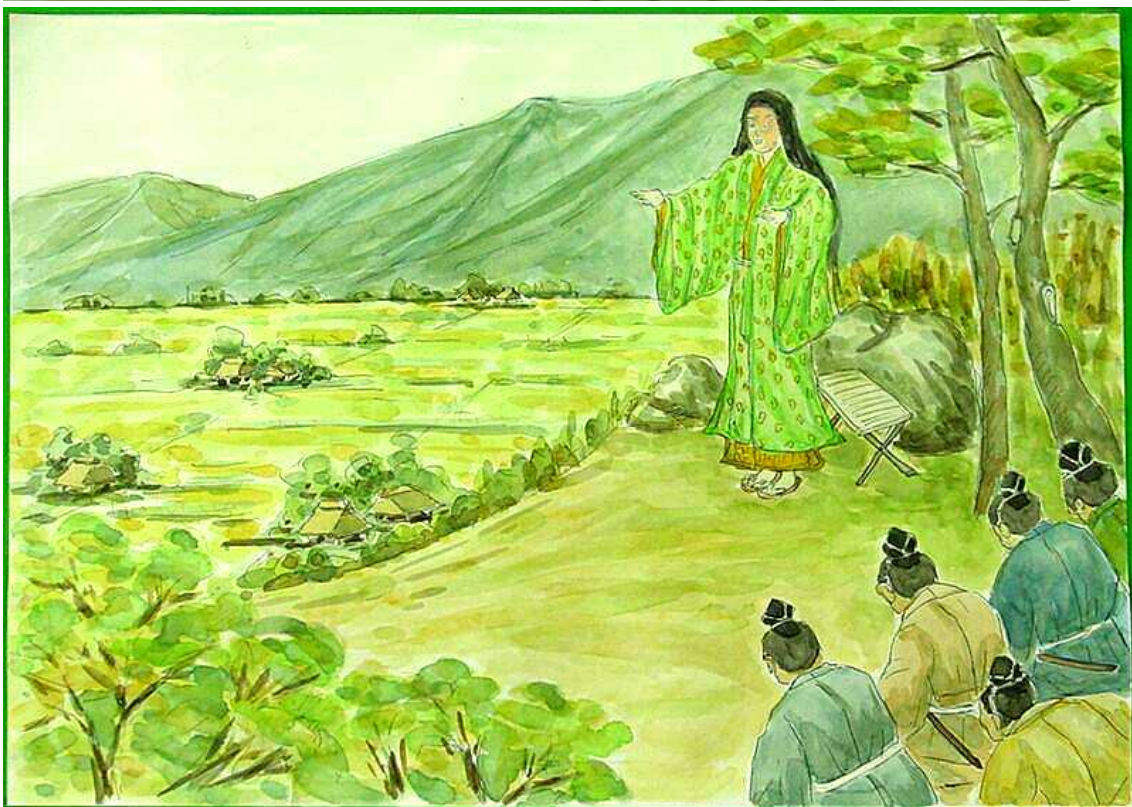




## 我が園よ

長かった源平の戦いは、源氏が勝ち、頼政の功績について、あやめのまえは後鳥羽院から賀茂一郡を賜りました。

あやめのまえは「我が園よ」と喜び、下原村を御園宇村と名を改めました。





# 二神山に城を築く

あやめのまゑは二神山に城を築き領地を治めました。

あやめのまゑは菩提寺として東条の三永にある表白山福成寺を再建しました。





## ニ神山を賊が攻める

あやめのまゑは平おんと暮らしておりましたが、あるとき、賊が城に夜討ちをかけてきました。城方は懸命に戦いましたが遂に城は落ちました。あやめのまゑは白馬で乗り原村の河舟田を通って逃げました。





## 鶴姫池に飛び込む

池のあるあたりで追っ手が近<sup>く</sup>まで迫<sup>って</sup>きたので  
侍女の鶴姫が菖蒲前の身替<sup>みかわり</sup>りになることを決心  
しました。鶴姫は着<sup>て</sup>いたものを取りかえて、  
「菖蒲前の最後を見よ」と、  
叫んで池に飛びました。  
この池は後に「<sup>ひが</sup>姫が<sup>いり</sup>池」と名<sup>な</sup>づけられた

